

市民がつくる温泉読本&モニターツアー

1.はじめに

鹿児島県は、火山帯の活動により、日常生活において固有の自然からの恩恵をうけてきた。それらは、様々な環境のもとに存在している。また、昨今の健康志向や本物志向の高まりから、温泉という自然環境を活用した観光やまちづくり・地域づくりがさかんになっている。ところが、数多くのガイドやマップ等の書籍類が刊行されているものの、その「恩恵」を編み出している周辺の多様な地域環境を取りあげ、それらを中心テーマに据えたものは少ないのが実情である。

また、県都である鹿児島市は、60万都市でありながら、市内にある銭湯のほぼすべてが天然の温泉を利用しているという自然環境資源に恵まれている。温泉を活かした観光や地域づくりもさかんに取り組みがなされている。しかし、地域に固有の多様な自然環境の恵みとして存在している温泉を、泉質の違いや活用の変遷など、地域環境の相互関係の視点から検証し、各々の温泉の特性を積極的に反映させたものは言いがたい。とくに、2004年の九州新幹線開通、2008年の篤姫ブームによる観光客の来県者数はひと段落し、とりわけ今後は2011年の新幹線全線開通など、さらに地域の独自性が求められる。一方で、持続可能なエルダー旅行者への有効な情報提供や、リピーターとなりうる温泉地の地域環境の相互関係の視点からの魅力向上を図る動きが鈍い。開通効果が一時的なもので終わらないよう持続させていくために、細やかな温泉情報を提供し、来訪者や地域住民の双方に多様なエコツアーの選択肢を準備する必要に迫られている。

2.活動の必要性・妥当性

本活動の目的は、鹿児島県内の地域住民をはじめ、鹿児島県外からの来訪者に、鹿児島の有する温泉環境の豊かさ、奥深さを体感してもらい、都市空間の中に残る自然環境の変遷に対する意識喚起や、いわゆる過疎地域等の条件不利地域の魅力の再発見を促し、それらの保全・活用への関心を高めものである。特に多世代が協同で学習の場を形成することにより、当初は漠然と温泉は体に良いという認識に留まっていたものが、地域環境資源としての活用・保全に、新たな地域創生の力をもたらすことに繋がると考えられ、本活動の更なる深化を図ることは妥当と考えられる。

そこで、地域環境資源としての温泉の存在とその利用価値や歴史的な変遷を、ワークショップを企画・実施する中で地域住民みずから再発見し、小冊子としてまとめる。その上で実際に都市部と農山漁村部を結ぶエコツアーとしての先駆的モデルケースとして、地元住民はもとより、広く県内外の住民にむけて、さらなる普及啓発と定着化を図る。地域に固有の自然環境・人間環境の関わりを知ることこそが、これからの持続可能なエコツアーとなるとの位置づけを、実践及び普及啓蒙活動の広がりを通して充実させていく。

3.活動の実施方法

温泉を「テーマ」単位で掘り下げていく形で、鹿児島の温泉を対象とした環境学習の場を提供していく。ワークショップのうち、ウォークラリー(まち歩き)と室内活動(講座)を一体のものにとらえ、前者を午前、後者を午後で開催する。室内活動は、温泉街の変遷などの講話や古地図・古写真と現在との環境比較を行なう学習の場とし、地域住民に温泉と周辺の環境との関わりを学んでもらう。その後、実際にまちに繰り出し、温泉地質学・地理学の専門家による、温泉とその周辺の地質見学と簡単な泉質調査、自然景観と人文景観の変遷を中心に多様な環境に触れる時間を設定する。なお、期間内に開催するワークショップは、5回程度とする。

ワークショップ後は、実際に完成した小冊子を用いたエコツアーを実施する。これをモニターツアーとして位置づけ、地域環境に対する魅力や地域づくりへのアドボカシー機能を付加させる。さらに、広く地域再発見に貢献する目的から、本助成事業の集大成として県内はもとより、九州・沖縄をはじめとする県外自治体や環境団体、教育機関等にも積極的に情報発信・交流機会の拡大を図り、相互の地域間交流を促進していく。

特に、県内多数の温泉地の中から、次のような地域特性をもつ「テーマ」を挙げ、ワークショップを展開していく。

- 自然湧出する温泉とは(地質学)
- 鉱山と温泉のかかわり(鉱床学)
- 温泉遺産の発見(建築物などの景観)
- 植物と温泉(植生学)
- 地域の食環境と温泉(人間文化学)
- 温泉のあれこれ(温泉科学)

これらに適う場所として、霧島・指宿・日置・垂水・出水を想定できる。

ワークショップの参加者は、多様な年代や職種の地域住民を予定している。また、これらの参加者は、新聞告知欄や本会刊行のニュースレター等で募集したり、本会が共催・後援・協力事業を行っている大学や行政・市民団体等を通じて呼びかけ、参加者層の裾野の拡大を図ったりする予定である。具体的には、鹿児島大学総合研究博物館や鹿児島大学生涯学習教育研究センター、県内外の環境・観光各課(行政)、九州伝承遺産ネットワーク・NPO法人桜島ミュージアム・鹿児島まるごと博物館(NGO)、県観光連盟(社団法人)等があり各々との連携を予定している。ワークショップの内まち歩きは、実際に野外に出て温泉やその周辺の景観の観察、および泉質調査などを行う。室内活動は、各回に「温泉」の専門家を学際的領域にたって招聘し、座学の場の提供や、刊行物作成にあたっての講義形式・ブレインストーミング形式の活動に専念する。

完成した最終版の温泉読本は、印刷して広く頒布すると共に、実際に本会が主体となって関係団体と連携しながら「再認識モニターツアー」として実施し、成果を県内外の地域に還元する。

4.期待できる波及効果

本活動は、多世代が同時に地域固有の環境について学びを深めていく過程を重視している。両者に「温泉」という共通の関心課題を通じた交流を含む環境学習の場の創出効果が期待できる。これは、子どもと大人が地域の抱えるさまざまな問題に、環境を切り口としてそれらの意識を共有することが可能となり、温泉という自然の恩恵を活かすことへの意識の向上や、強力団体との連携により、都市と農山漁村を結ぶ新たなエコツアーを確立する上での体制作りとなることを意味している。温泉をテーマとしたこの刊行物を二次的活用していくことも注視し、県内外で活躍する環境NGOや自治体との共修講座の開催へとさらに成果の波及範囲の拡大が期待でき、環境教育の自立した環境NGOの活動としての体制確立・定着が期待できる。

5.年間の実施スケジュール

(1)『温泉読本』等刊行物作成(ワークショップ形式の事前ツアーも含む)

- ・ワークショップ：期間中計5回・・・6～10月のうち5日間を予定。

(刊行物は10月末を目処に参加者とともに完成させ、印刷版の頒布とインターネット上での公開を開始。)

(2) 読本を用いたエコツアーの実施、モニターツアーとして住民のアドボカシーを地域に還元。

- ・バス&列車&散策のエコツアー：期間中計3回・・・11～翌1月のうち3日間を予定。
- ・活動まとめのフォーラム開催...活動の総括、展望を観客参加型の形態で開催。

(3) 情報の更新追加：ツアー実施により新たに発見した温泉の魅力をネット版にアップ(3月)。